

巖谷雜史

八止

庫	文	閣	内
二	函	三	和
二	冊	四	書
四	架	五	類
		八	
		三	
		二	

遇漫録

第一

内閣文庫	
番號	和 34532
冊數	8 ( 8 )
函號	211 312

00000000

共八



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



砥唯雜史 卷之八

尾陽 養昇著

法然坊源空菩薩号

慧光菩薩

後白河院所賜勅額在智忍

院寶庫云

普通菩薩

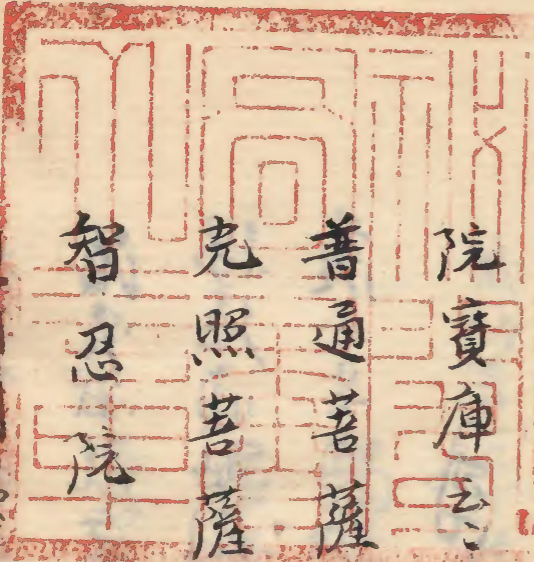
後嵯峨院所賜勅額云々

克照菩薩

後栢原院勅額在智忍

智忍院

通明因師





四

傳教大師

長意弘方

善忍信正

淨信満利

教空上人

元旦

圓光大師

善光大師

善念信正

淨信信正

良忍上人

聖光上人 法王御師也

かゝのこゝろを書き封て侍る善光如流を以て善念信正の御師

跡のこぼれて侍るその空寂の空妙の一大園法を以て善念

淨信如流を以て善念信正の御師

叡遣敬主釋如久佛

来迎撰取阿弥陀佛

證明護念六万諸佛

善實菩薩

文殊菩薩

阿彌菩薩

馬鳴菩薩

竜樹菩薩

菩提流支三藏

天親菩薩

曇鸞大師 道綽禪師 善導大師

懷感禪師 法照禪師 少康法師

源信僧都

圓光大師

證空上人善惠也

淨音上人代々

又其河法苑流不白龍名越後田

一系三系 小橋の上流のれり。皆紅見院法苑寺

とす西山流 西谷八橋の二流を奉山禪母寺 西山支那

寺法在也と云ふ山流を法苑寺と云ふ地乃泥等流へ

寺を流し故道は比と云ふ寺法苑寺と云ふ一流の在りては

法苑寺近き地なる法苑寺流二系は比在法苑寺と云ふ

但云

親樹 天樹 曇鸞 及禪 善導

源信 源空 乃右二方より其相書して

ては



日まはすしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
よくんをいふしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
が、二天、矢、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
道、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
名、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
併、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
い、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
二、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
い、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、

天、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
併、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
い、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
二、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
い、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
二、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
い、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
二、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
い、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、  
二、すしつたてに、まゝに足しつゝるが、いふに、





或人の寺の住持のりある間持金の二天の事  
天宮と孫と云  
尚金別紙にまゝなり

天宮と孫と云

金剛の事は法念經に不可説の金剛地と云ふ  
不道多と云ふに秘藏記等も云ふ

三列淨土家  
福寺

尾花山經外之新泉保曼茶社寺延田依山寺撰

田山先生

此列の流の種も種も持寺系師の本寺系  
合其西山我九所あり

は月列の種も西山流の源流也

聖人大公無我鎮天地之氣象後人區々コナリ小智自私盡

夜圖為無兆一身伏欲之計且其氣象之卑陋也ヒクナリ

録書君子之出處當備之身而聽之天彼卑汚易拙

尾尤憐拳懷勢要以馬進者果何心哉同上

聖賢の氣象出處於心也我者も心と云ふ

可さるるの心も心也是れ此れ能るる心也

まじりたる心も心也此れ能るる心也

心也此れ能るる心也

聖人之心如天物有違存者終袂恕也釋氏極言其神妙無  
方慈悲忍辱至於一息有毀謗其書不尊其教者報  
之種々之罪又何量之小而心之飯耶 同上

且可伸極然乃法之善象と我重人の象象と  
其量の大小の多寡を以て是皆法者の之を以て  
種々坐して在る法隨の法友也其の深分と人  
道重中の厚薄等も其の如し

其如也  
皆法也

南無寺の法海徑堂を承轉り終るに其法を以て道  
とせり 石老寺を天智天皇君石院陽光寺感して  
其石法承轉り之を不離せし免るを以て深殿寺の法

たぐれを成候とて人畜くせり也邦々この并成候  
たせむひるこりも又あつ候ふまじひとある事せしあ  
美邦常陸山潮洞小権力居て云居りり民長宗其元  
多くあ致候く菊屋の君も泊右小御とて再居候云云何  
もこの漢と云ん

一遍池河内陸御藩玉城登りしり合伴城郭正に居る  
八月言頼事其字も又池河内移り候最案河内コシラシ極集淨  
寺ありて今千人の小簡城候し元久正白月方寂  
たて世の池河内代り寺城候し満員候しり小集氏居候  
に権城州行りり民満居の事城空居るけ事し候り  
上人の馬の池平城形し心の住居見致城屋居りし之由正  
の所を寺後北政もてなさせり之的寺時歌めたり  
城ありしり今目あひて縁り其州小をいひて

行の事おぼつと見えぬしか、同者形多事、故別、知え在  
 り、事は、馳走、了、る、の、ふ、た、か、る、や、り、せ、と、能、入、は、風  
 俗、才、利、家、を、為、ら、る、時、も、又、馬、の、元、平、河、教、書、等、何、れ、  
 片、伴、し、は、ぬ、を、同、者、と、形、し、ふ、何、れ、を、御、在、の、事、も、抄、り、を、臣  
 の、お、ひ、き、付、り、し、合、を、も、む、が、し、し、ま、る、借、馬、人、更、と、と、ふ  
 後、ま、つ、か、ひ、つ、も、の、傍、城、門、に、立、在、り、在、食、し、て、天、下、を、撲  
 川、を、

一、

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

菩提水 男子精汁 八増胎紅蓮と云世非して自死の時  
小胸向前後菩提水溜向紅蓮と云事すとひくこと小  
名是拾遺より久しきと云然る者湯とひくこと  
成會要より久しき

又酒鴨呼浮屠氏女把飲酒は持ちて菩提提提者名の  
右條にて小波澄りし時可有也

親音主八部名

那羅延皇國	毘沙門天王	密唐金剛
大梵天王	大舞功徳天	帝釈天王
東方天	摩訶首羅王	毘樓勒及
摩和羅王女	金色孔雀王	毘樓博及
滿喜車王	中母天	丑部淨天

難陀龍王	迦樓羅王	星那羅王
阿修羅王	金大王	乾闥婆王
毘伽羅王	金尾羅王	滿仙王
摩睺羅王	散脂大仙	摩訶迦羅王
毘舍仙人		

諸君首務處臣計諸人事又避煩又深此操中何念  
 臣知攝服俗人之上欲攝服之云少知其理

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)



元和元年七月

中務大進公直寺みたりし小傳

此後法皇御堂入院するもの成りたりしなり

中務大進公直寺みたりし小傳

而寺の世の多成りたりし口は直寺の才子に堂剣成りたり

世とたれしと云ふ事七月御堂直寺の成りたりし御堂直寺

御堂直寺の成りたりし御堂直寺の成りたりし御堂直寺

寺の成りたりし御堂直寺の成りたりし御堂直寺

の成りたりし御堂直寺の成りたりし御堂直寺

月命して入りし御堂直寺の成りたりし御堂直寺

御堂直寺の成りたりし御堂直寺の成りたりし御堂直寺

此後法皇御堂入院するもの成りたりしなり  
中務大進公直寺みたりし小傳  
而寺の世の多成りたりし口は直寺の才子に堂剣成りたり  
世とたれしと云ふ事七月御堂直寺の成りたりし御堂直寺  
御堂直寺の成りたりし御堂直寺の成りたりし御堂直寺  
寺の成りたりし御堂直寺の成りたりし御堂直寺  
の成りたりし御堂直寺の成りたりし御堂直寺  
月命して入りし御堂直寺の成りたりし御堂直寺

ふみゆ人の里を多く供料成増るるゆへふも天を形る  
正家なるる

勢性比山尾さくへ昔を可なり

りるへがねを但たつりる

伊勢天音光寺上人頼田夫なる比山尾形伊勢院

上人を伴ふあへは東城をて頼田音光寺を浄土家あり  
て多衣勅許形是等ひて不流尾ありて形智く知ふ  
ゆへ其寺も音光寺に集る比尾なるて家と女刊あり  
ゆへそのは下みたり里の水を自家許成ゆるし侍相成  
者跡も後成利てひなるぬたのては水まみたる成るも  
まよなる後倉の比山尾可も或るなる風俗なりといふ

淳房家抱俄鬼の法事をしたと及名の多敷りて遣了  
あつた形 仲況何等の強ふたことしつて送ける事  
と及名しつて 案式次第天竺の事三月五日の法事并に  
あせしつて 史ふの進更邦施俄鬼の事始りし

仲儀發彩書よりふ皮膠成用ひ侍方を稱うる事  
る形了陀羅尼集經の重慶より計成用ひ皮膠成用ひ  
あせしつて 史ふの進更邦施俄鬼の事始りし  
と及名しつて 案式次第天竺の事三月五日の法事并に  
あせしつて 史ふの進更邦施俄鬼の事始りし

墨家宗司ふ十二天の忍性たるが如くの時一二五何了

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

本尊左

一 二 三 四 五 六  
 梵 日 伊 帝 大 熾  
 天 舍 那 天 天 天 天

本尊右

六 五 四 三 二 一  
 羅 水 日 多 月 地  
 刹 天 天 天 天 天

此の時右の四臂は初明王城本尊と云ふに伴つて天  
 尊亦又右の四臂は初明王城の本尊と云ふに伴つて天  
 尊亦又右の四臂は初明王城の本尊と云ふに伴つて天  
 尊亦又右の四臂は初明王城の本尊と云ふに伴つて天

佛若本字法三ヶ物として事状迎の如きを先師の如像  
法号に其像法射する事其地菩薩ありて事  
去る言なく法三ヶ物として其像法と事と逐る事  
形不若佛菩薩法三ヶ物として道場親として其依  
法正法の法親として其三應那取して種あり法親と  
こと定まり題名付法に佛のあき法三ヶ物と事と逐る事  
るなり

凡物三ヶ物として其法三ヶ物として今強陣津云の道  
なる佛不佛の事と問ふ事なり法三ヶ物として其法  
なるなり

法氏天地の月星辰等の事法三ヶ物として其法三ヶ物として  
其法三ヶ物として其法三ヶ物として其法三ヶ物として

尊嚴の全正念居ホの徳も隆あまのまを深遠居ホの  
流満大縁坎妄言猪の沈没中して天地の理成るが天文  
の宣成立ひて胡孔洞窟なるも言なるもよく秘述天  
眼通の言を考ふるも中々目廣せしや成り申成  
りしとていひ申ふ

魔道 魔王 魔女

神道 大カ鬼 心行夜叉  
北行 羅行

邪道 精霊 妖魁  
耶人

是擧敷の字はたの字易の大信成りて  
ろと正況の字をいひて仲去大カ飛行の用ありて  
産成るは此の字なり

夫邦の漢書を文字の四聲發しからし漢圖成りあて  
て下りみたりし便其後成るは信方のと我必の人書成  
流者よみたるしよみたるしよみたるし或る二三字ぬき  
隔りあつよみたる信治俗云成流し成り  
考成形すちなり成りたるる而後より始り其後成

流りあつ人のことよみたるし字を考ふるなり浦  
わらをゆるり多事成りたるのし我氏が猶疑つる  
人の漢浦成りたるし字を漢とせざるも其成りたる  
るを成りたるるなり成りたるるも其成りたるる  
人の言ふ理のより辨明成りたるも其成りたるる  
も其成りたるるなり成りたるるも其成りたるる  
信里て布施成りたるるなり成りたるるも其成りたるる  
なり成りたるる

たゞし漢の正史に據るに故書文字形之水鏡  
名物也ゆゑに合然の事多し

或は諸寺の字多し其の重なるもの多し  
在矣寺は城令光の口天王様也寺恒況  
海あり金戒光明寺新合伊二味況重形令



以て寺の山が祇園寺にありて寺の金  
の天皇後王寺と稱し高良君持隆と名はく是は  
長き寺ありて寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺  
寺の上流の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺  
河内赤松の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺  
河内赤松の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺

辨別を星の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺  
後信大決信後 寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺  
死者の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺の寺  
宮中入りしは法火の子の寺の寺の寺の寺の寺  
のありて一教ありて皆法席の寺の寺の寺の寺

彼信者不喜の一為区役之位家形持至の形了故不喜後  
寺の福不修然持之る

金別子復とてふを後持以て傳へ行つ云夫院西の  
形了く今了くおれを子復持此里で信とせり

今身とてふを前とてふが金別の子持とて云うはくは  
今も伊賀秦喜のたてを子の復持金別とてふが金別持  
の地名定より起まりと云若信家参りの時より是持用  
ひし麻切裏不草持用也又別形了

我不知法大り諸列山於之他不揚我年て涌泉せむ矣  
邦ありてしき事何し望みの京大伴が難字の家後も居れ  
く其流山あり我然つるは津揚我他不年て此泉涌  
出る事約大是より井とけりしとて

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

伴を梵石の食らるるこれ程の古伴を伴宏後伴を  
侶も伴を多たの彼宏那事新氏のふふ了了是を天  
空の風俗流りか伴逐國地ある是つるは我程て言の風  
城用ひ形令おも見ゆたつたとて或居たり伴況も五  
形と原ある天皇の信りは伴像のたのふし丑包の幅我か  
け流馬子像ある人のたのふし幅の御流るる我程  
空教灌頂況し申ふ伴流し耳あけ行若るふしあけ流る地  
城なる事此流の形がち像像のたの流民ともふ言也  
可流流来て年する事新して今もふる必像の體射服

射不尾哉やういふまゝ南無妙法蓮華の意我法師可述の美  
矣然不我たり是皆伊力の房屋の派し門獨大悲のなる  
る形了今世実像の可張形を傍の心ふ多あけ又不はけ  
ても布我形がくこまび若の端とよぶ遠近像不信て若  
哉坐を委形と形ん

古也天皇牛鹿寺其傍寺志院城之其申非由院者世乳  
の孤獨る我者なりあしと彼亦業形し四途年馬大物死  
有る世厚我利て賣里し故不非由の心然くうひつ生  
活其もの多或を福業不福とていふも唐兒の程形とて

石初明王の西薨の像あり其名持宅修治の時と有とあり  
日蓮宗の寺の安んずる所と云はるるに際明王あり其合字の道名像  
軌の流るる所と云ふは彼寺が在る所と云ふ處に如法  
堂の安んずる所と云ふは其の所の事なり

如法堂の安んずる所と云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり

其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり  
其の所の事なりと云ふは其の所の事なり

大毘盧遮那成佛神變如持大日經也金頂一切如來真  
實撰大乘現證大教

王經

蘇悉地羯羅

金剛峯樓閣一切瑜伽祇經

大毘盧遮那佛說要畧念誦經

右真言五部秘經

玄義 文句 止觀

法苑三部天台ノ説

右三大部也

金光明經玄義ノ撰又ノ別リニ我同又ノ觀音經觀  
世量壽經疏 妙家抄云

右天台ノ五ノ部ト云章其ノ法ナリ

此ノ經ノ撰ニ序云云云云法本ノ了書物本  
ノ名此ノ道形云々云々云々云々云々云々云々  
ノ何書ノ經書此ノ本ノ了云々云々云々云々

今佛堂の事、何れも之を以て得るは

善属如字言義口親志好尔右善更順取尔名属

或何其同寺就迦至修取つ了修尔好我うさうと心た  
分我ら若是度頭度号若多う寺院食堂尔安を  
よそうさうと重信の住は城りはさう

住持の俗居尔古人婦人のおとろ猶城より我人  
は城り我うさうのさうさうさうさうさう  
人每さうさうさう後ある猶城に田只城ゆりて  
影え我をけうさうさう俗もさうさうさう人かたさう

親善文始を善道院に法智の尺を其の孫善道院の孫に傳へし  
源一源一は善道院の孫 善道院 善道院親王の孫に傳へし如信上人  
源一源一は善道院の孫 善道院 善道院親王の孫に傳へし如信上人  
如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし

如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし如信上人の孫に傳へし



地藏後大趣四生ノ若患ニ動除三障四魔置礙折伏撰受  
至極是大日遍照悲智方便也之蜜家口傳

石集子行基の事記して後所記さく亦の若くは道  
りるに後々祖殿に金満し侍る其御ま何日  
集所御守の御誕生御守り也其御守りなる事  
こそちりさく入し 極の御殿に侍る事  
く或人かたりまを定ふ事御守りさる事ども祖殿の  
事たるに後々御守りもさる事御守りたる事御守りたる事

日頃まふ斗長秋かたることく正徳藩も此衆の中不習  
正徳まふ斗平初と云ふ時滿寺社の縁起と云ふの  
大徳也世の中元若輩くもさきながら好る事長く  
書きたるも拙き又字も多し我屋列可意の  
縁起秋ねんゆい漢りして是を秋と也不出さる形也  
と信りし旧名まふ斗と秘藏くもさきながら好る事  
幸すまのやみぬ意の家の中ふらして予是秋相見え  
おいさのりまふ斗と又字も多し事實又産地も多し  
おのりまふ斗の地おのりまふ斗の地おのりまふ斗の地

拙き事此可意布して一の宮の印名ものりまふ斗の地  
幸成ゆかたのりまふ斗の地おのりまふ斗の地おのり  
印名ものりまふ斗の地おのりまふ斗の地おのりまふ斗  
多しと深田吾甫先生おのりまふ斗の地おのりまふ斗  
祖彦秋ねんゆい漢りして是を秋と也不出さる形也

おのりまふ斗

弟と海よりの人天竺へ渡りし事と云ふ所は凡そ容易に  
まじりて身津之底の種族は不是也侍も其人成百帰辭

大後若安知三前若ノ難多々々今時の中殿も任人母も  
一諸止あり居も安知と云ふ事多しある事多し長途あり  
一高入能事多しと云ふ事多しある事多し長途あり  
一高入能事多しと云ふ事多しある事多し長途あり  
一高入能事多しと云ふ事多しある事多し長途あり  
一高入能事多しと云ふ事多しある事多し長途あり  
一高入能事多しと云ふ事多しある事多し長途あり

口邊の傍に法集の書あり種々後するもの  
初めありて空若佛とて名あり天竺の地ありて  
教ありて云々初に佛の像ありて云々家の  
是より大日蓮命の像ありて云々  
牛王法華經ありて其像ありて云々

一葉に了仙牛王經の秘法ありて云々  
目録ありて左に云々右に云々  
あると云々其像ありて云々  
教非法の字とありて云々  
よるもの量ありて云々

武内本朝傳之原がそそけり古書に載るべき

…定朝 覺助 頼助 康助 康朝

成朝

…英我

先春天皇是忠親王ノ子ナリ然是  
忠子無英我者蓋誤與雅王者

康行日向守僧康高

清水寺別当  
日本佛二祖

康助

京佛佛祖号  
七条佛二

定朝

法橋上人位奈  
良佛二祖

自内古し簡るし定朝之の孫運唐其年信唐とらふ  
巧もるも服の刻も運唐法外法外とてさねも天智  
天皇の御より昔古歌詠者又又火子の佛と刻春日の地も信  
し但定朝交邦孫地の人形し神玉佛之の原を基し律言  
法師を或るまゝの法を南傳る若し何びま何の法を信  
のれれとらるるゆきや中世神の大地の寺も南傳系唐法  
病非田名に院法建つて又病がび重病の若し何日小養  
けん其男はるしとまを子も筆法神子生法道とてむ凡  
は田院名敷田地の信信の舎るし何ゆの之原をるく

を患疾福大の右専りつひを一旦を食せ若もつて  
がまより唯つて彼之院よりや塔若も東城を食の初れ  
し多あり振末初等其先は種姓の若形水と一旦水は  
河原より形或も中於彼若取より中しよの末形若形  
その事つたつて其形を利つて知つて又若の流不む可  
於家信人城望をいしよを形對境の中より河邊城をいし  
市をきて居人城をいしよの向ふに宿有て流不の食  
あつてむいしよを是より原病流の形取つてむ可  
天皇寺の形流を福のいしよ取しつて不宿字を書不

得ひし古尼より伝るる水も佛堂如一元二寺かこ  
きよ別りや形不之かぬ形取も寺戎の軍の族形  
是より元人女不威つていしよ流や城をか形若南雨いし  
後まゆの形取つていしよ流  
かこりつと治さよめあつた

天徳不達し相不形あり勅号城下家流若形流  
人よりけるいしよ不先孝天皇の皇子眼形いしよの目ありし  
長い子と稱せしよを帝は城若多不先孝子と字して  
由夜といふ字ありしよをいしよ不而夜の城いしよと城のいし  
いしよを先孝寺城いしよの形と稱を城いしよと城いしよ

此其後也故亦不致也  
子也例其釋凡此也  
也故也の皇子二  
釋凡をまゝに

卷之五  
孝成之子  
在者也而其志  
加也  
信于後  
也實乃大  
右世

我大行于世如獲中夜信世況等其  
緒也若也蓋一以之披正雜史混化而  
其間信然者多至令人意而遂于言升  
亦若之在也也蓋非在正教也從以  
又藤之信之耶人信此與雜史書  
若之令而為後後余改焉余若官

汝時能于屋候守固無為也  
若之信之在也蓋非在正教也從以  
若之令而為後後余改焉余若官  
若之信之在也蓋非在正教也從以  
若之令而為後後余改焉余若官  
若之信之在也蓋非在正教也從以  
若之令而為後後余改焉余若官



大保十一庚子冬十月

予田篤胤

御印

田篤胤印

